

営農部営農支援課、北部エリア（久喜・菖蒲）担当の北川です。

今年度より、新任の営農渉外員（TAC）として、日々勉強しながら活動しています。

TACの活動としては、農業者の所得増大、農業生産の拡大に向けた取組みをしており、内容は下記の通りです。

- ①私の担当する北部エリア（久喜地区、菖蒲地区）では、栗のようなホクホク感が特徴の南瓜「ほっとけ栗たん」をここ数年取組んでいます。うどんこ病やアブラムシの防除が必要ですが、短節間性で作業の省力化ができ安定した栽培が期待できます。久喜市の特産に向け市内量販店、直売所での販売を行っております。
- ②水稻の省力栽培として、鉄コーティング種子を用いた水稻直播栽培（水稻種子を鉄粉と焼石膏でコーティングし代かきした水田に直接播種する）、密苗（高密度に播種し苗箱数を減らす）いずれも、育苗に要する施設、資材、労力、作業時間を大幅に減らしコストを削減させる技術であり、鉄コーティング直播栽培と密苗栽培を組み合わせることで、農作業を分散し、一層の規模拡大や生産費の削減を図ることが可能です。
- ③加工用業務野菜においては、現在、輸入に頼っている状況ですが、国産への需要が高まっており、機械化による作業が可能な作物もあり、大規模な遊休農地の解消につながります。計画的な生産出荷を行い契約栽培取引による収益の安定化を図るための有効な手段としてご利用頂けます。
- ④新規作物「青パパイヤ」は、病害虫もほとんど心配がなく、今後、栽培技術が確証して生育が旺盛となれば、育てやすい熱帯果樹と言われています。健康食材の野菜としても注目されつつあり、遊休農地の解消、省力栽培による生産拡大に向け取組んでおります。

今後は、このような取組みの提案・資料提供を行い、組合員の方々のお役にたてるよう活動をしていきたいと思っております。上記に関するお問い合わせ、その他、何でもお気軽にご相談ください！！